

開催日：2025 年 3 月 4 日(火)

2024（令和 6）年度外部評価委員会 講評

I 総論

本プログラムは令和 5 年 7 月に採択され、各種セミナーや公開講座を通じて、学生や医療従事者、一般市民への情報提供および啓発活動が行われた。また、教育体制について、正規課程コース全体では、受入目標達成率が 9 割を超えるなど、積極的に受講者を確保できている点は高く評価できる。

今後、コースの魅力や修了生の進路等の情報発信を強化することでさらなる受講者の増加が期待される。

また、在宅がん医療や緩和ケア、歯科医療等の多職種・他機関との連携を推進し、教育プログラムの充実を図ることを求める。今後の取り組みに関して留意していただきたい点を以下のような講評とした。

II 各論

1. 教育プログラムの魅力発信と情報提供の強化について

受講希望者を増やすためには、コースの特徴や修了後の進路・成果を具体的にアピールすることが重要である。受講者が自身のキャリアを明確に描けるようになれば、関心が高まり、受講者数の増加が期待できる。そのため、プログラムの魅力を十分に伝えられる情報提供の強化を検討いただきたい。

特に、修了者の進路に関する情報を得ることは、受講者が自身のキャリアビジョンを構築するうえで重要である。そのため、がん診療連携拠点病院の指定要件のうち人員配置基準、診療報酬の加算などの仕組みを鑑み、勤務先の病院名だけでなく、職種や具体的な職務内容等の情報を積極的に提供することが望ましい。

また、発信時には SNS や YouTube などの現代的な媒体を活用し、一方通行ではなく、受講希望者との双方向的なコミュニケーションを図る方法を検討いただきたい。

2. 行政・職能団体・患者の会等との連携について

在宅がん医療や緩和ケアとの連携、歯科医師や歯科医師会との連携が不可欠である。患者団体や医療機関との連携を強化し、プログラムの認知度向上にも努めていただきたい。

また、生活習慣病や公衆衛生分野（食事、禁煙、肥満、減塩など）、がん予防に向けた取り組みについて、行政が推進している健康日本 21 施策と連携し、予防体制を強化するための取組にも努めていただきたい。より多くの多職種・他機関にアプローチし、教育プログラムの発展につながることを期待する。

外部評価委員長 八重樫 伸生